

1939年に開港した現在の大阪国際空港（伊丹空港）は、半世紀以上にわたる歴史の中で、随時設備の更新を重ねてきました。そしていまエプロン照明設備の経年劣化対策として照明リニューアルを実施。塔柱・架台ごと新しくした5基の照明塔を含め、上方光束を制限したエプロン照明専用のLED投光器が計79台導入されました。

近畿地方の空の玄関口として半世紀以上にわたり親しまれたきた大阪国際空港は、関西国際空港と神戸空港が開港した今も、国内線のみで年間1500万人以上もの航空旅客で賑わう基幹空港。厳しい運用時間の制約のため、極めて効率的に運用されており、世界的にも最高レベルの定時運航率で知られています。



【物件概要】
所在地：大阪府豊中市蛍池西町3丁目555番地
敷地面積：311.9ha
施主：関西エアポート(株)
施工：電気/オリックス・ファシリティーズ(株)
完成：2019年1月



格納庫付近の照明 エプロン照明器具として専用開発したLED投光器①②を高さ17mの照明塔に設置し、エプロン照度基準に適合する明るさを確保。

エプロン北端エリアに新たな照明塔を5基設置。専用開発の昼白色LED投光器を採用。

大阪国際空港のエプロンは、ターミナルビルや格納庫といった空港施設の前に、1,828mの長さを持つA滑走路と並行して広がる駐機エリア。この広大なエリアをこれまでナトリウムランプ器具およびメタルハライドランプ器具を搭載した35基の照明灯が照らしてきましたが、今回の照明リニューアルではエプロン北端側、格納庫付近の照明塔を、計38台のLED投光器を搭載した5基の照明塔に更新しました。また、その他のエリアの既存エプロン照明でも、部分的に灯具の入れ換えが行われ、計

41台のLED投光器が採用されました。器具はパイロットへの配慮として上方光束を抑えるアルミ製遮光板を取り付けた特注品で、航空局の要求仕様に対して試行錯誤しながら開発したエプロン照明専用器具。1kWメタルハライドランプ器具相当の明るさにより、駐機スポット内20ルクス、全般10ルクスの照明基準をクリア。オレンジ色の既存照明が立ち並ぶエプロン中央に対して、明るい昼白色で照らされた北端エリアが、新生伊丹にフレッシュ感をプラスしています。



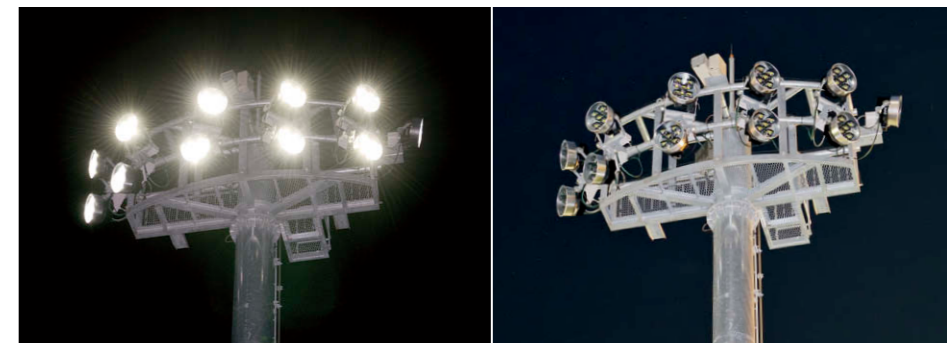
皿鉛めっき処理を施した照明塔灯柱。



格納庫前 作業環境に適した5000Kの明かりが格納庫前のエプロンを照らす。



格納庫前 写真奥側エプロン中央エリアのナトリウムランプ色と対照的な手前側昼白色の照明環境。



照明塔架台(左:全点灯/右:消灯) 上段に正置形①を、下段に吊下形②を設置。

主な掲載器具一覧		器具名(品種名)	形名	台数	備考
エプロン	①	LED投光器1kW効率重視形メタルハライドランプ(専用安定器点灯形) 器具相当耐塩形(正置形)	LEDS-50407-OS-005	51	消費電力:505W(200V)
	②	LED投光器1kW効率重視形メタルハライドランプ(専用安定器点灯形) 器具相当耐塩形(吊下形)	LEDS-50407K-OS-006	28	消費電力:505W(200V)
		塔柱・架台・避雷針		5	